

皆の広場

素人の神話考②「ギリシャ神話概論」

自文科 永野 徹

[ギリシャ神話]

[1]はじめに

H21.9.15

1)プロローグ

人類最初で最高の叡智と人間性を兼ね備えたギリシャ文明の根源となる偉大な叙事詩で主題と成る「ギリシャ神話」は人間性を基盤とした神々で人々を魅了して止みません。古代ギリシャ神話の特徴は人間に似せると言う擬人化にあると言えます。ギリシャ人は神々も人間にありがちな感情や弱点を持っていると想像して、恋をし嫉妬し、憎しみ、時に人間をいじめたりするものと考えましたが、人間との明確な違いは神々は不滅で不変であったことです。神話の初期の段階では信じがたい怪物たちや、恐ろしい悪魔の破壊活動が主体でしたが、やがてゼウス神が誕生してギリシャ神々の主神となり、世界も落ち着き秩序と平穏が保たれるようになった。紀元前5世紀、アイスキュロスの時代にはゼウスは高德化され人類を高揚してギリシャの古典時代を最高潮にした。ホーマーの時代には神々は既にゼウスは理想の支配者としてミケーネ社会のモデルを形成していました。

2)神話原典

- 「イーリアス」と「オデュッセイア」(BC8世紀) ・作者はホーマー(BC8世紀後半):大叙事詩「イーリアスとオデュッセイア」と34賛美歌「イーリアス」は今のトルコ北西海岸で栄えていたトロヤにギリシャ軍英雄達が遠征して十年間の戦いの末に攻略した「トロヤ戦争」が物語られている。「オデュッセイア」はトロヤ戦争でギリシャ軍が勝つ為に有名な「トロイの木馬」の計略を考え出した知恵者オデュッセウスと言う英雄の話が語られている。また、「ホメロス讃歌」と総称されるBC(8~6)にホメロス他多くの詩人により作られたそれぞれの神々を主人公にして讃えた詩33?34?編がある。
- 「神統記」(BC8世紀) ・作者はヘシオドス(BC8世紀前半):「神統譜」と「仕事の日々」等の叙事詩「神統譜」は現在あるギリシャ神話の原形となる主要なストーリーを物語る大作である。「仕事の日々」の主な内容は農夫に対する教訓であるがその前置きとしてパンドラの話をはじめとしていくつかの重要な神話がこの詩にも語られている。
- 詩人達(BC5世紀) ・ピンダロス(BC518~438):叙事詩の大詩人でオードの創始者5世紀初頭に作られたピンダロスの「合唱歌」の中でも色々な神話が興味深く取上げられている。

3)ギリシャの「三大悲劇」

- ギリシャ・アテネの三大悲劇作家(アイスキュロス、ソフォクレス、エウリピデス)の作品により多くの物語りが現在あるような神話に完成された。
- アイスキュロス(BC524~456):偉大な悲劇作家で約90の作品があるアイスキュロスの作品には神話の話題が多い。
- アレクサンドリア詩人たち:ロードスのアポロニウス、パイオニルキアノス、アポロドロス
- (~AD1世紀) ・ハウサニウス(BC2世紀):「ギリシャ紀行」の作家で歴史・地勢等で神話の源
- ・紀元後1世紀頃に博学の学者によりギリシャ神話全体のあらすじを要約し標準的な概約書が完成した。
- (ローマ時代) ・ローマの作家たち:ウエルギリウス、オウディウス、ホラツウスローマのアウグストゥス皇帝時代にラテン語で書かれた詩人オウディウスの「変身物語」は全編で神話が詠われ宝庫と呼べる内容である。

[2][ギリシャ神話王朝]

ヘシオドス「神統譜」より

- ①創世譚 **全ての神々に先立ちカオス(混沌)が存在し**、カオスは創造のはじまりで天地万物の根源を持っていた。、最初に誕生したのは**ガイア**(大地の女神)そして**タルタロスとエロス**の3人の創生神である。
- ・ガイア(女神):女神あらゆる神々の祖母であると同時に空恐ろしい母神。
- ・タルタロス(男神):地底の地獄神で、悪神や魔物を封じ込めている場所

- ・エロス(男神):愛の神、女神でなく絶世の美男子
このあと、カオスはエレボス(闇)とニュクス(夜)と言う2人を産む
- ・エレボス(男神):地下暗闇と黄泉の世界の神
- ・ニュクス(女神):暗黒の夜の女神
闇のエレボスと夜のニュクスはやがてエロスの働きで、この世で最初の「結婚」をし
生まれた子供はアイテル(天空の光)とヘメラ(昼)である。
- ・アイテル(男神):天上の光・高空の神
- ・ヘメラ(女神):昼の女神

女神ガイアは最初のうち誰とも結婚せずに自分の力で子供を産み始める。

最初にウラノス(天)、次に高い山々川と(海)のポントスを生んだ。

- ・ウラノス(男神):天の神(母であるガイアと結ばれ親子夫婦となる)
- ・ポントス(男神):海の神
やがてガイアは息子ウラノスと結ばれ、タイタンと呼ばれる12人(男女各6人)の神を産み、
その後3人の一つ目巨人(キュクロプス:丸目)と3人の怪物(エカトンヘリス:百手)が生まれ
最初のギリシャ神話王朝を築いた。

②第一王朝(ウラノスーガイア)

- (カオス神) ・カオスから生まれた神々(大地ガイア、地獄タルタロス、愛エロス、暗闇エレボス、夜ニュクス)
・エレボス、ニュクスの産んだ神(天上の光アイテル、昼ヘメラ)
- (自産神) ガイアが自力で産んだ神々(天神ウラノス、高い山々、海神ポントス)
- (夫婦産神) ・**ガイア(大地の母神)とウラノス(天の息子神)の子供神**
(子供神) **12人のタイタンと3人のキュクロプス、3人のエカトンヘリス**
- (巨人神) タイタンは天(ウラノス)と地(ガイア)の子供であり、いわゆる「巨神族」として君臨していた
タイタン ・12人のタイタン
(6人の男) オークアノス(大洋)、キオス、クレオス、ヒペリオン(太陽・月・暁の父)、
イアペトス(アトラス・プロメテウスの父)、クロノス
(6人の女) テティス、テイス、アミス(正義)、ムネモシネ(記憶)、フォエベ、**レア**
・キュクロプス(額の真ん中に一つ目の巨人)
3人: フロンテス(雷男)、ステロペス(稲妻男)、アルゴス(光の男)
・エカトンヘリス(百本の手と50の頭を持つ巨人)
3人: コティス、キゲス、プリアレオス

(物語-1) ウラノスとガイアは無限に子供を作ったがウラノスは子供達の1人に退位させられることを知っており、子供達が誕生するや否や地の底(タルタロス)に突き落としてしまった。ウラノスはキュクロプス(丸目)とヘカトンケイル(百手)のような怪物はこの世界に存在しては困る
と考えて身動きできないように縛りあげ、妻ガイアのお腹に戻し地底に閉じ込めて
しまった。

ガイアは失った子供達の仇をとるために、一番末の息子クロノスを助けた。

クロノスは鎌で父親の生殖器を切り落としてしまったので、ウラノスは権力を失って
しまった。こうしてクロノスは新しい支配者になった。

ウラノスの傷の血から恐ろしいエリニュスとニンフ達が生まれた。粉々になった不死身の
生殖器は海に落ち、そこから泡が吹き出て、愛と美の女神アフロディテー(ヴィーナス)
が生まれた。西風の神ゼピュロスが現れアフロディテの泡に息を吹きかけ東へ東へと運
びキプロス島に漂着した。そこで必要な装飾を終えると季節の神ホウたちアフロディテ
を天上で待っている神々の元へ彼女を案内する。この世に一番早く生まれた美青年
エロスは欲望の神ヒメロスをお供にして天上までアフロディテに同行した。この時からエロス
はアフロディテを実の母親の様に慕い一緒に暮らすようになった。

③第二王朝(クロノスーレア)

- (夫婦神) ・**クロノス**(ウラノスの末息子:ローマではサターン)
・**レア**(ウラノスの末娘)
- (子供達) ヘステイア(ヴェスタ)、デメテル(ケレス)、ヘラ(ユーノ)、ヘイデイス(フルート:冥界の王)、
ポセイドン(ネプチューン:海の支配者)
ゼウス(ユーピテル)
- (物語-2)** **クロノスは偉大な支配者となり、妹のレアを妻にした。この夫婦は長く宇宙を支配し**
神々の第二王朝を築き、クロニデス(クロノスの子孫)と呼んだ
残念ながらレアにもガイアと同じ悲劇が始まった。クロノスも父と同様に子供に王座を

追われる予言を恐れて子供が生まれるや否や次々と飲み込んでしまった。
 レアは母ガイアの助言に従い、一番末っ子を助ける為に赤子のゼウスの変わりに、
 産着に石を包み王に差出すとクロノスは慌てて飲み込みこれに気づかなかった。
 こうして、この子は命拾いし、**ゼウス**と命名された。
 無事に成長したゼウスは、祖母ガイアの教えに従い父親クロノスを巧みに騙して吐き薬
 を飲ませて、飲み込んだ子供を次々と吐き出させることに成功した。
 最初にゼウスの身代わりの石、次に海の神ポセイドン、その次に黄泉の神ハデスと2人
 ゼウスの兄神達が吐き出された。そのあと、ゼウスの妃となるヘラ、農業の神デメテル、
 かまどの女神ヘステイアと言う3人の女神が吐き出された。

④第三王朝(ゼウスーヘラ)

(天界支配) ゼウスとその兄弟は世界の三大領域を支配している

- ・**ゼウス**(天空の支配者)
- ・**ポセイドン**(海の支配者)
- ・**プルート**(冥界の支配者)

但し、地上とオリンポス山は神々の共有

- (夫婦神) ・ゼウス(天上の支配者で別名ユーピテル:クロノスの末息子、ローマではジュピターと呼ぶ)
 ・ヘラ(ゼウスの妹で妻:タイタンのオケアノスとテティスの子神)

- (神々) デメテル(ケレス)、アテナ(ミネルバ)、アポロ、アルテミス(ダイアナ)、ヘルメス(マーキュリー)
 アレス(マルス)、アフロディーテ(ヴィーナス)、ヘファイストス(バルカン)、ヘステイア(ヴェスタ)
 デイオニソス(バックス)、パン、アスクレピオス(アエスクラピウス)

オリンポス12 偉大な雷神ゼウスを主神として、二人の弟ポセイドン(ネプチューン)とハデス(プルート)がいる
 その姉妹にヘステイア(ペスタ)、ゼウスの妻であるヘラ(ユノ)がおり、ゼウスとヘラの子にアレス
 (マルス)、その他にゼウスの子としてアテナ(ミネルバ)、アポロン(アポロ)、アフロディーテ(ヴィーナス)
 ヘルメス(マーキュリー)、アルテミス(ダイアナ)、ヘラ(ゼウス)の子ヘバイストス(バルカン)

(物語-3) 第二王朝クロノス王神を倒して、最後の第三王朝ゼウス王神の誕生
 (テイタノマキア:タイタン達との戦い)

ゼウスと
 タイタンの戦い ゼウスは海の神ポセイドン、冥土の神ハデスと力を合わせて、クロノスを王として世界を
 支配していた**タイタン達と戦争を始めた**。

この時、ゼウスは軍勢の本陣をギリシャ北の端にあるテッサリアとマケドニアの境に聳える
 オリンポス神「オリンポス山」の頂上に置き、自分に味方する神々を召集したので、**オリンポス山の
 山頂が天上の神々の住処となった**。

テイタノマキア ゼウスとタイタンの戦い「テイタノマキア」は十年に渡って続いたが決着がつかなかった。
 そこで、大地の女神ガイアはゼウスに「生まれてすぐにガイアの腹に戻され、地底に
 閉じ込められた怪物「キュクロプス」「ヘカトンケイル」を地上に開放して味方につけるように」
 知恵を授けた。

鍛冶の名手キュクロプスは早速、ゼウスに無敵の威力を持つ「雷」を、ポセイドンには穂先
 が三つまたにわかれた「三つ又戟」、ハデスにはかぶると姿が見えなくなる「兜」を
 献上した。

ゼウスの勝利 戦場ではヘカトンケイル達は百本ある怪力の手で巨岩をタイタンに投げつけて岩の下敷き
 にしてしまい、一方ゼウスは恐るべき破壊力を持った雷でタイタンを焼き殺す攻撃を仕掛
 けたので、さすがのタイタンも降参してゼウスの大勝利となった。父クロノスに代わってゼウス
 神々の統治 は神々の王として世界に君臨する事となり、ゼウスは「天空」を直接統治し、「海」は
 ポセイドンに、「地下の冥途」はハデスにと世界を役割分割統治することにした。
 他の全ての神々にも夫々の支配する分野と役割を配分した。

[3]オリンポスの神々(ギリシャ神話)

1)神々の王ゼウス(ユーピテル)

- ①最高の神
 ゼウス ゼウスは王杖と鷲を持ち、頭の髪は垂れ下がり、力強い立派な男に象徴されている
 ゼウスのシンボルはヤギ皮の楯と雷電である。一番有名なゼウス像はフィディアスによって
 造られたものでオリンピアにある。
ゼウスは神々と人類の父であり、最高の支配者で自然界現象(雨・光・雷)の神で
 でも有った。人々の運命を司り、正義を保護し、全般的に人類の存在を見守っていた。

ゼウスは至高の神性さと完全なる倫理であり、その権力は理性、寛大性、正義感を基本としていたがこの権限には限りがあった。何故なら役割を専任する神の権限の方が強い事もあるから。但し「運命について」見ると運命の女神ミレースはクロソ、ラケシス、アトロポスの3人で人々の誕生から死までの運命を司り、運命が宇宙を支配する掟だったので神々は彼女達に反する事ができなかった。ところが、この掟はゼウスが定めたものなのでゼウスは運命の案内人として例外的に振る舞った。ギリシャ人が彼に全権限と完全さを持たせたことで、多神教にも拘わらず一神教の最初の源を彼の中に見出せる。

②ゼウス神の王朝確立

(タイタント戦争)ゼウスはクロノスとレアの末っ子であり、たった1人レアによってクロノスに呑込まれを免れクレタ島に連れて行かれて山羊の乳で育てられた。数日で父クロノスと戦える程成長し、父と再会して嘔吐を引き起こす薬草を飲ませて、クロノスの呑込んでいた5人の子供達ポセイドン・ヘラ・ヘイデーース・ヘステイアとデメルを助け出した。ゼウスは兄弟姉妹神と一緒にになってクロノスとタイタンを相手に戦争を起こした。ゼウスはクロノスによりタリタロス(奈落)に落とされていたキュクロプス(巨人)とエカトシヘリス(怪物)を救出し、援助を求めた。優れた鍛冶技術を持つキュクロプスから「雷光と雷電」の無敵の武器を得たゼウスの攻撃と、怪力エカトシヘリスの巨岩を投付ける攻撃によりタイタン族と10年間続いた戦争に終止符を打ち、勝利したゼウスはオリンポス神々の王として君臨。ヘラクレス タイタン戦争後、大地の母ガイアは巨人達を産みオリンポスに向って新しい戦争を仕掛けて来たが、ゼウスの息子ヘラクレスが退治した。更にガイアはタルタロスとの間にガイア最後の子供タイフンを仕掛けた。タイフンは山より高く、肩には百本の蛇の頭を持ち、口から火を吹く怪獣で、ゼウスの手足の神経を切り落し歩けなくしておいて、デルフィナと言う竜に神経を渡してしまった。この時ヘルメスが神経を奪い返してゼウスを助けた。

③ゼウスの女神

・ゼウスは多くの女神と沢山の子供を設けた
正妻ヘラ ゼウスの正妻は女神の女王ヘラ(ジュノー)で子供達はヘペ、アレス(アース)とレイシアでした
賢神メティス ゼウスの最初の妻は賢者のメティスで彼女が妊娠した時、父クロノスと同じように子供に追放されると言う予言を恐れて妻メティスを飲み込んでしまった。ゼウスの腹の中でメティスが出産する時期が到来するとひどい頭痛に悩まされ、ヘフィストスに頭を割らせ娘アテネ たところ、彼の娘、女神アテナ(ミネルヴァ)が誕生した。
正義神テミス 2番目の妻テミスは正義の神でホライ(時間)、ミレース(運命)を産んだ。
エウリノメ 3番目の妻はオーケアニスのエウリノメで3人のハリテス(美)を産んだ
デメテル 女神デメテルとの間にペルセポネ(コレ)が誕生した
ムネモシュネ タイタンの娘ムネモシュネとの間には9人のミューズを設けた
レト タイタンの娘レトとの間に双子のアポロとアルテミス(ダイアナ)を産んだ
メア 最後に妖精メアはヘルメスを産んだ

④ゼウスの人妻

・ゼウスは美しい人間達とも恋愛をして子供をもうけた
アルクメネーとの間の子供はヘラクレス、セメレにはバックス(デイオニソス)、レタには(双子のデイオスクロイ、ヘレン)、ダナエには(ペルセウス)、エウロペには(ミノス、サルピドン、ロダマンシス)が誕生

2)女神の女王ヘラ(ゼウスの妻)

女神の女王 ヘラは一方の手に王杖、毛一方のてに、受胎の象徴であるザクロの実を持っている
ヘラ また、ヘラ女神のシンボルはカクウと孔雀である。
レアとクロノスの娘ヘラは黄金の冠を頂いた女神の女王でゼウスの妹で公式な妻であるヘラとゼウスは理想的な夫婦の象徴であり、ヘラは結婚の守護神で、女神の中で最も高貴でオリンポスの神々から崇められていた。このような中でパリスの審判で有名な3人の女神(ヘラ、アテナ、アフロデイトイ)の美の競争事件が起き、パリスはアフロデイトイ(ヴィーナス)愛の女神に黄金のりんごを差出した。そこでアフロデイトイはパリスにスパルタ王メネラオスの妻で、人間の中で最も美しいヘレンをこのお礼にと約束した。**パリスのヘレン誘拐事件**によりギリシャの神々も対立させたあの**トロイ戦争が始まった**。
当初ヘラは聡明なあしらいでゼウスと対応していたが余りに数多くの恋人を作った為

に、次第にゼウスの恋人や子供たちのひどい仕打ちで敵に回るようになった。
例えば、ヘラクレスを死ぬまで追詰めたり、ゼウスを見捨ててエウボイア島へ帰ったりした
ゼウスとヘラはヘベ、アレス、イレイシアの三人の子供を設けた。ヘベは永遠の青春を象徴し
ており、ヘラクレスは人間として死後ニオリンポス山に行き不死身となってヘベを妻とした
ゼウスとヘラの二番目の子供はアレスで、戦いの神であった。三番目は出産の女神
イレイシアであった。他にヘファイストスが息子である。
ヘラの神殿として、古代最大のサモス島神殿、偉大な彫刻家ポリクレイトスによるヘラの像
があるアルゴス神殿、他にアテネ、エレウシス、コリントス、エピダウロス、ネメア等に神殿がある。

3) 海の神ポセイドン(ネプチューン)

ポセイドンはクロノスとレアの息子でゼウスとハデスとは兄弟であり生まれてすぐに父に飲み
込まれていたが、ゼウスによって救出された。
ポセイドンは海の制海権や泉・川・湖を統治する神で嵐や地震を起こす神でもあった
ポセイドンが怒ると嵐を呼び、暴風雨を巻き起こし三つ又の戟で海を荒れさせた
心安らいている時は海は静まり、イルカが紺碧の海に戯れ美しい妖精ネレイスが舞った
古代ギリシャ人は海洋民族であったので海神信仰は厚く大事な存在であった
ポセイドンの宮殿は黄金で、地中海の奥深い所にあった。ポセイドンの妻はネレイスの
美しい妖精アンピトリテで、ナクソス島の海岸で姉妹で遊んでいる時にポセイドンが一目
惚れして連れ去り、二人はトリトンと多くのニンフを産んだ。
ポセイドンとの有名な争いは、アテネ女神とのアテネ占有権、ヘリオスとのコリントス占有権、
ヘラとのアルゴス占有争いでした
代表王的な神殿は小アジアのミカレイとポセイドニア、もう1つの崇拝地はサントリーニ島で
最も大きな崇拝所はコリント近くのイスマリアである。また最も知られている神殿は
BC5世紀に作られ、アッティキ本土のスニオン岬にある
容姿はゼウスとよく似ておりウェーブの羅った髪と髭をはやし、聖なるシンボルは三つ又
の戟とまぐろ、いるかである

(ポセイドンの家族)

正妻 正妻は海の妖精であるアンピトリテで、海神ネレイスとオーケアニスの娘

子供 ポセイドンの子供達は残酷で野蛮であった。

- ・アンタイオウスはリビヤで一番残酷な王で殺した人達の骨でポセイドンの神殿を建てた
- ・ヴァシリスは統治していたエジプトにきた他国者を全て殺害していた
これらの残忍な巨人はヘラクレスにより殺された。
- ・アミコスはベセニアを統治する拳闘家でポリセフキスが勝利するまで他国人は拳闘で殺さ
れていた。
- ・ケルキオンはエレウシスの王でテセウスが彼を止めるまで多くの人が殺された
この偉大な英雄テセウスはアテネからコリントスに向う旅人達を脅していた残忍なポセイドン
の息子達:スキロン、シニア、プロクロウステスも殺した。
- ・ペガサスはメチューサとポセイドンの息子
- ・キュクロパス、ポリフェモスはオデュッセウスがトロイ戦争から帰りに盲目にさせられ、ポセイドン
はこれを怒りオデュッセウスが故郷イタカに帰るまで海を10年間彷徨いさせた

4) 冥途の神ハデス(プルート:富)

ハデス(ヘイデイス)はクロノスの3男で、生まれてすぐ父クロノスに飲み込まれていたがゼウス
により救出され「冥途の王」黄泉の国の最高の判決者となったが恐ろしい悪魔の神
ではない。境界ステュクス川(三途の川)を越えるためには渡番カロンにお金を支払う
必要があったので、死人には必ず口の小銭を入れて埋めた。尚冥途の入口は
三つ頭を持つ地獄の番犬ケルペロスが守っていた。古典時代彼は死者の王だけでなく、
大地の豊作とか、金属・鉱物等の産物も荷っていた。ハデスがかって地上に外出した
時に農業の女神デメテルの娘ペルセポネと出会い恋に落ちてしまい彼女を下界の女王
にしてしまった。

ハデスはゼウスとそっくりで、雷を持っていないだけとされている。彼に捧げられた
神聖な植物は糸杉と水仙で、動物は犬、狼、蛇でした。

下界には、ハデスの娘達と呼ばれた、恐ろしい顔をしたケレス、当初美しい神であったが後に恐ろしい怪物となったアエロとオケペテ、ケレノの下界の3人女神がいた。

5) 農耕の女神デメテル(ケレス)

デメテルは農耕の女神で、大地の母ガイアを受け継いだと言えます。人々に小麦、トウモロコシ、大麦の育て方を教えて、農民の刈入れ豊作を助けた。

クロノスとレアの娘で他の兄弟と共に父クロノスに飲み込まれていたのをゼウスに助けられた。ゼウスとペルセポネは彼女に恋したが拒絶された。そこで、ゼウスは雄牛に変態して彼女と結ばれ生まれたのが美しい娘ペルセポネである。一方ポセイドンも雄牛に変態して、牝牛に変態したデメテルと結ばれ、怒りの馬アリオンが生まれた。デメテルは一度だけ恋に落ちてイアシオンと結ばれプルータスを産んだ。

女神の象徴は、小麦、けし、蛇で、フィディアス作の有名な大理石の彫刻はアテネ国立考古博物館にあります。

ある日ペルセポネが行方不明になるや母デメテルは二つの松明を掲げて世界の隅々まで探し回った。9日間彷徨い歩いた見つからず、10日目にとやっとヘリオス(太陽)からハデスが連れ去ったことを聞かされた。ゼウスや神々に憤り、オリンポス山を降りてエレウシスへ辿り着き、老女に変装してエレウシス王の娘の息子デモフォンの乳母として雇われたが、その子が不死身になるように火の中に横たえている所をメタネイラに見つかり、乳母に返信した訳を話して「エレウシスの神秘の儀式」を教えて去った。その後、大地は芽も出なくなり、果物も出来なくなって人類始まって以来の大恐慌が続いた為に、ゼウスは仲裁にはいり、ペルセポネが暗黒の世界から出て毎年半年間は母デメテルと暮らせるようにハデスを説得した。彼はペルセポネを母元へ返す時に下界に戻ることを忘れないようにザクロの実を食べさせたので、ペルセポネは死者の女神であると共に地上の豊作の神ともなった。

6) 知恵の女神アテナ(ミネルバ)

① 女神アテナ

アテナは芸術と知恵の神で、清潔さと厳しさを持った処女の女神である。

ゼウスは、最も賢いメティスを最初の妻としたが、メティスはまずアテナを産み、その後オリンポスを支配する神を生もうとしたので、ゼウスはアテナが生まれる前に妊娠中のメティスを飲み込んでしまった。その後アテナが生まれるときにゼウスは酷い頭痛に悩まされ鍛冶の神ヘファイストスに頭を割ってもらい、アテナはゼウスの頭から武装した姿で生まれてきた。

アテネ市民は、聖なるアクロポリスの岩の上に、世紀の傑作と言われる女神アテナを祭るパルテノン神殿を建立した。

② アテネ争奪戦(アテナVSポセイドン)

アテナとポセイドンがアテネ(アッティカ)の支配を巡って二人の神が争ったギリシャ神話の出来事は有名である。ポセイドンはアクロポリスの丘に三つ又の戟で岩を突いて最初の馬を作りだし、アテナ神は槍で地を突くと平和の象徴オリーブの木が誕生し、神々と人民達はアテナの勝利と審判した。

③ トロイ戦争の守護神

アテナはトロイ戦争でアテネの英雄たちを守った守護神であった。デイオメデスが窮地の時彼の冑と槍から炎を吹かせた。アキレスが窮地にあるときは燃えるような雲で彼を守りオデュッセウスがトロイ戦争からイカタに帰還する帰途を助けた。またペルセウスが怪獣ゴルゴンメウサを退治するのを助けられたのを感謝して、女神に怪獣の頭を差出したのでアテナの楯にはゴルゴンの顔が刻まれ完全武装で表現されている。

④ 愛される神

アテナは英雄ペレフオンに天空の秀麗な手綱を与え、翼を持ったペガサスを捕まえ、飼ひ馴らさせた。またイアソンとアルゴ艦隊の一行がコルキスから「黄金の羊毛」を手に入れるために「アルゴ船」の建造を教えた。

アテナは手工芸の神でもあり、紡績の技術や刺繍、彫刻、貴金属、建築、陶芸等を人々に教えた。

⑤ パルテノン神殿

最も有名なアテネ神を祝うアテネ大祭典は十日間続き運動競技、音楽祭、競馬、踊り、

各種コンテストが開かれる。祭典の見せ場は「全アテネ市民の行進」である。行進はアテネのデイプロ門から始まりアゴラを横切ってアクロポリスに着いて、アテネに新しい金のペプロス(ペール)を献納する。アクロポリスの丘には古代の偉大な彫刻家フィディアスが制作したパルテノンフリーズがあり、祭りの行進の様子が見られる。

⑥アテアの象徴

女神の象徴は槍、ふくろう、蛇、オリーブの木である。アテナ女神の最も有名な像はフィディアスの作でパルテノン神殿の中央に建つ高さ12Mの像で金と象牙で出来ている。

7)太陽の神アポロン

- ①アポロン **アポロン**は**ゼウス**とタイタンの娘**レト**の息子で、オリンポスの神々の中でも一番ギリシャ性を持つ神で、男性美の典型でした。アポロンは太陽と光の神、真実の守護神、弓・音楽の守護神であり、また病を治したり、医学を人々に教えた。
- ヘラの嫉妬 **ゼウス**の妻**ヘラ**は**レト**に嫉妬して、復讐のために**レト**が双子の**アポロン**と**アルテミス**を産むとき、大地にお産の場所を提供する事を禁じた。ヘラの怒りを恐れて誰も**レト**に場所を提供しなかったので絶望していた**ヘラ**を哀れみ、海神**ポセイドン**が海面下にあった**デロス島**を海面上に出して提供した。すると**ヘラ**は娘で「出産の神**イレウス**」に助産を禁止したが、**イレウス**はこっそりと**デロス島**に行き**レト**の出産を助けたのでやっとの事で、双子の**アポロン**と**アルテミス**が誕生でき、その後オリンポスに昇ったと言われている。
- ②デルフォイ神殿 **アポロン**は出産後4日目でオリンポスを離れて**パルナソス山**へ行き、巨大な大蛇**ピュトン**を退治してその地を**デルフォイ**と名付けて、運命と予言を占う神託所を建てた。**デルフォイ**神殿は海拔600mの**パルナソス山**にあり、地球のへそと呼ばれ、神々の最も有名な神聖地となった。**フェトリアデス**の荒々しい岩間を穏やかに流れる清水の**カスティア泉**が有り、**プレイストス**の谷間には万年オリーブの木々の緑が茂り、眼下には紺碧の**コリントス湾**を見下ろす事ができる絶景の地である。
- ③デルフォイ信託 2500年前の古代ギリシャ人は**アポロン**神殿の**デルフォイ**神託を最も信頼していた。神託の儀式ではまず巫女**ピュティア**が**カステリア**の泉の水で体を清め、魂を清めるために**カソテイス**泉の水を飲んでから神殿に入り月桂樹の葉を噛みながら神殿の三脚の椅子に座り、恍惚状態となった巫女は**アポロン**のお告げを厳かに語った。
- ④デルフォイ銀行 神殿への小道は「聖なる道」と呼ばれてギリシャの都市国家は競って有名な宝庫を建て「ギリシャの銀行」と呼ばれた
- ⑤ピュティア祭 この神殿の最大の祭が**アポロン**が巨大な大蛇を退治したことを祝う「**ピュティア祭**」と呼ばれ、オリンピアのオリンピック競技会とか**ネメア**の**ネメア祭**りと似ている。**アポロン**は予言者であると同時に**リラ**と**フルート**の達人の音楽家・音楽の神であったので**アポロン**神に捧げる歌や詩はいつも**リラ**で伴奏されていた。
- ⑥恋愛事件 **アポロン**は**ヘラ**の復讐とか何かで幸福な恋愛が成就しない悲惨な恋愛事件が多い。大地の妖精**ダフネ**は彼の求愛を受容れずに月桂樹に化してしまったのでそれ以来彼の聖なる植物は「月桂樹」となった。
- ⑥恋愛事件 続き **オケアノス**の娘**メリア**には息子**イズミノン**、**コリキア**との間には**シコレア**が生まれ、彼の愛を拒んだ**ヘステイア**、**アリム王**の娘**カサンドラ**、**アポロン**よりも人間**イタ**を選んだ**マーベサ**、溺水した**ヴォリニ**、**カスティア**は**デルフォイ**の美しい乙女で泉に投身したのでこの泉は**カスティア泉**と呼ばれる。さらに、**フレギアス**娘は**アスクレピオス**産み、**クレウサ**は**イオニア**族の祖先**イオン**を、**イブセオス王**の娘**ケレネ**は**アリストオン**を産み、**クレタミノス王**の娘**カリス**との恋愛事件と多いがこれ等は**アポロン**崇拜の聖地ごとに女神と子神が創生されたと解釈される。
- ⑦アポロンの象徴 **アポロン**の聖なる植物は月桂樹、しゅろ、天人花で、鳥は白鳥とハゲ鷹、他には**イルカ**、**狼**、**ねずみ**、**ヘビ**などを好んだ。**アポロン**神のシンボルは三脚、弓、矢、楽器**リラ**など

8)狩りの女神アルテミス(ダイアナ)

アルテミスは**ゼウス**と**レト**の娘で**アポロン**と**双子の子供**として生まれた。オリンポスの3処女神の1人で狩りの女神で獣の守護神であり、自然の神でもあった。ヘラの嫉妬に悩まされた事は**アポロン**で記載のとおり。**デロス島**で双子のうちまず**アルテミス**が誕生し、

母親レトがアポロンを産むのを手伝ったと言われている。彼女は小アジア西部では受胎の女神として、クレタ島では大地の母として崇拝された。
トロイ戦争で、ミケーネのアガムネオン王のギリシャ艦隊が風が吹かないために何日も出向できないので、予言者に原因を尋ねると女神アルテミスが非常に怒っているので生贄として娘を献上した所、アルテミスは不憫に思い自分の巫女として使うことにした。
アルテミスの祭典の中では少女に熊の形相をさせる「ヴァラウロン祭」が有名で、アルカデイアや多くの島でアポロンと一緒に崇められた。小アジアではエフェソスのアルティミッシュが有名
アルテミスの聖なる植物は月桂樹、糸杉、しゅろ、天人花で家畜動物(山羊・犬・兎・鹿)と野生動物(熊・猪・ライオン等)が好きであった。

9) 商売の神様 **ヘルメス**(マーキュリー)

ヘルメスはゼウスとアトラスの娘マイアとの子供で出生地はアルカデイア(ペロポネソス)。ギリシャ神話では最も愛された神で、商売、受精の神様であり、弁論・英知の神でもあった。
ヘルメスは誕生後1日も絶たないで盗みを働き盗人の首領でもあった。亀の甲羅に兄アポロンの羊を盗んで7本の羊腸を張ってリラを発明した。しかし羊を盗んだ事は認めずオリンポス山でゼウスの審判を受けたが嘘を言い続けて盗みは白状しなかった
ゼウスも愛嬌で二人で居なくなった羊の群れを捜すように命じた。ヘルメスはとうとう盗んだ羊の居る洞窟まで案内しそこでリラを奏で兄アポロンの許しを乞う事になるが仲直りの印にヘルメスの楽器リラとアポロンの金の杖とを交換し、互いにそれが象徴となる持ち物となった。
ヘルメスは偉大な発明家でもあり、天文学と数学の父であり、測量の技術も見出した競技大会の創始死者でもあり、そこにはヘルメス風の柱(ハーム)が必ず置かれた。又市外でも市場、橋、十字路、外道等に正しい道を教える目印として建てられた。
また、「フシオポンボス(魂の案内人)」とも言われ魂の下界への案内人でもあった
ヘルメスは妖精ドリオビに恋して神パンをもうけ、アテネ王ケアクロスの娘エルシと恋してケファロスを設けたが、数々の恋の中でアフロディテとの恋は特に有名であった。
ヘルメスはアルカデイア以外の全ギリシャでも崇拝され「ヘルメチア祭」は特に盛大であった。
ヘルメスの聖なる植物はけし、オリーブ、天人花でシンボルは両側に羽根のある鍔広の「ペタソス」と言う帽子である。他には何処へでも飛んで行ける「黄金のサンダル」と触れると誰でも眠らせてしまう「ケルキオンの杖」である。

10) 美の女神 **アフロディテ**(ヴィーナス)

- ① 美の女神
誕生 アフロディテは女神の中でも最も美しい愛の女神で、作家ヘシオドスによればクロノスが自分の父ウラノスの男根を切落とし海に投捨てた**白い泡からアフロディテが誕生**し西風に運ばれてキプロス島に流れ着いたので、ホライ(時)は非常に喜んで彼女を迎え、貴金属で飾りオリンポスへ連れて行きギリシャの神々の中に加わった。
オリンポスの神々はこの女神の美しさを賞賛し、男の神々は結婚を望んだ。ゼウスも望んだが代わりにいつも人間の神を与えられたので、とうとう足に障害のある息子ヘファイストスの妻とした。アフロディテは彼を欺いて数々の恋をする。アレスとの間には
- 結婚
数々の恋 **エロス**(キューピット)、ハーモニア、デモス、フオボスの子供達が生まれ、次いでデイオニソス(バックス)、ヘルメス、ポセイドンと関係をもった。また人間とも恋をした。羊飼いのアンキセスとの間に生れたのがアイネイアスでした。美男子のアドニス(アドニス)が狩りをしている猪に襲われ何とか助けようと駆けつけた時素足であったので棘で怪我をして血が飛び散り白バラが赤く染まり彼の死を嘆いた涙からアネモネの花が創られた。
- 美人コンテスト **トロイの王子であるパリ**は神々の美人コンテストの審判をする事になりアフロディテが一番美しいと審判し、彼女に「黄金のりんご」を与えた。そのお礼に最も美しい女性スパルタ王メネラオスの妻**ヘレネ**を受取り、**これが原因でトロイ戦争が勃発した**
ギリシャ軍はヘレネを取り戻すためにトロイに向い、アフロディテはパリを擁護するためにトロイ戦争に加わった。
- 戯れ アフロディテはコリスの王子アイエデスの娘メデアをイアンソンに恋するように仕向けたメデアは「黄金の羊毛」を盗む事を助けてギリシャに戻った「アルゴ船の一行」
クレタ島ミノア王の娘アリアドネが英雄テセウスに恋するように仕向け、彼がミノタウロスを殺し迷路から出てくるのを助けた。
悲劇を招いたのは、テセウスの2番目の妻フェードラは義理の息子に当たるヒッポリュトス

神殿	に夢中になってしまいフェードラはこの気違いじみた愛を絶とうとしたことが悲劇に また愛らしい話としては、足の速い美しい乙女アタランテが結婚を嫌がっていたので もし彼女より早く走れたら結婚すると言って競争させ、若い英雄メラニポスを助けて 三つの黄金のりんごを彼に与えて、彼女が追いついてきた時にそのりんごを順次 落として、彼女はりんごを拾う事で遅れてメラニポスが勝って結婚した。 アフロデイトイは「結婚の守護神」であり、「娼婦達の守護神」でもあった。 有名な神殿はパフオス(キプロス島)やイトス山にあるが最も有名な神殿はコリントにあった 百人以上のエテレスが女神の巫女として神殿訪問者に奉仕していた。 オリンポスの神々が出現する前に世界を支配下神々の中で最も立派であったエロスは 不思議な事に、後に誕生したアフロデイトイの子供として出現しています。
芸術	芸術の中のアフロデイトイは裸体で片手を胸に、もう一方を下腹部にあて描かれている 特に有名な像はプラクシテレスの「ニオスのアフロデイトイ」でもう1つはフディア作でオリンピア にありました。かの有名な「ミロスのアフロデイトイ」はルーブル美術館にあります。
シンボル	女神のシンボルはりんご(愛のシンボル)、鳩または花です

11)鍛冶の神ヘファイストス(ヴァルカン)

ゼウスの 息子?	ヘファイストスはホメロス神話では「ゼウスとヘラの息子」であり、ヘシオドス神話では「ヘラだけ の子供」となっている。彼は不具者で醜くかったので母であるヘラはオリンポス山から海 に放り投げてしまったと言う。
天才鍛冶 の神	ヘファイストスは鍛冶の神で何でも器用に工作し発明するので、天上でも地上でも愛さ れ平和愛好の神でした。ある時、出生の秘密をヘラから聞き出すために素晴らしい 肘掛椅子を贈った。ヘラが腰掛けると眼に見えない鎖がヘラを縛り付けて動けなくなった 全ての神々がヘファイストスに自由にするように頼んだが無駄だった。ヘラの息子アレス は怒って彼に立ち向かったが火の松明で退却させられてしまった。そこでゼウスは 美しいアフロデイトイをヘファイストスの妻にする事を約束してヘラは解放された。しかし 美しいアフロデイトイとの結婚は不成功であった。美しい愛の女神は忠実な妻ではな かった。
アフロデイトイ 結婚	
ゼウスの僕	ヘファイストスは父ゼウスには逆らえず服従したので不本意ながらヘラクレスが救出するまで プロメテウスをカフカソスの巨岩に鎖で縛り付けた。またアテナが生れてくる時にゼウスの頭を 割って女神アテナが誕生した。更にゼウスはヘファイストスに粘土で最初の女性を創らせ エピメセウス(プロメセウスの兄)に贈り最初の人間が誕生した。
容貌	背が高く細いかたわの足の不具者で長い髪を生やし袖なしの衣を着ている。人相は 温和であるが、目は利口でずる賢く見えた。
鍛冶	鍛冶の天才で現在で言うロボットを作り、自分の代わりに働かせたり、徒歩の手助け をさせた。父ゼウスには「楯と王杖」を、デメテルには鎌を、アルテミスとアポロンには矢を、 ポセイドンには三つ又の槍を、酒の神デイオニソスには黄金のコップを、アキレスには鎧楯を ヘラクレスには黄金の胸当てを作った。オリンポスの山には壮大な宮殿を建てた。
崇拝	ヘファイストスは全ギリシャで崇拝され、アテネでは芸術の神アテナと共に崇拝され、神殿では アテナ女神像の横に置かれた。

12)軍神アレス(マース)

アレスはゼウスとヘラの息子でギリシャの神々の中で一番野蛮で「**戦いの神**」であった。
神々の間でも嫌われもので、父のゼウスでさえも嫌がった。
トロイ戦争ではギリシャ軍を助けるとヘラに約束していたがトロイ側にも就いたので、アテナは
ゼウスの胃をかぶりアレスが英雄デイオメデスに負傷されるのを援助した。アレスは戦場を
去りオリンポスに戻り医者ペオンの手当てを受けた。
アフロデイトイとの不法の恋については、ヘファイストスに事前に浮気がばれて細工をされ、

ベッドの上で透明の鎖で2人が縛り付けられて居る姿を全ての神々に見せられ神々
の笑いものになった。アレスとアフロデイトイの子供達はエロス(愛)とアンテロス(愛を返す)
デイモス(恐怖)、フォボス、ハーモニアである。他には妖精アルピナとの子イオノス、アルセアとの
子メラグロス、フィロノスとの子リカストス、ペロペイアとの子キクノスがいる。もう1人はヘラクレスに
殺されたデイオメデスです。

アレスへの崇拝は北部ギリシャのトラキアから始まり、神殿はトロイゼニア、テゲア、スパルタの

3箇所にある。アレスの側近は二人の息子デイモスとフォボスそして妹のエリス(戦争の意)とその息子ストリフでした。戦いにはエニオー(恐怖に震える)とケレス達を伴った。アレス神のシンボルは槍と火の付いた松明で、動物では犬と禿たかである。

13) 酒の神デイオニソス(バックス)

- 酒の神 **デイオニソス**は酒の神と呼ばれ葡萄酒と葡萄の木の神様です。また演劇の守護神と農業の神様でもあります。彼は古代ギリシャの中で最も人気のある神で出生地についても様々な意見があります。最も有力なのはポエオティアのテーベ説です。
- ヘラの嫉妬 **父はゼウス**で、母はカモス王の娘でテーベのプリンセス・**セメレ**でした。ヘラはゼウスの不倫を知り、セメレに残酷な復讐を計画した。老婆に変身してセメレの前に現れ「ゼウスに望むものは何でも叶える」と約束させて「雷光と雷電を放ちながらセメレの前に出現」するように仕向けた為にセメレは未熟な胎児バックスをお腹にはらんだ状態で焼け死んでしまった。そこでゼウスはデイオニソスを腹から取り出し妊娠の満月となるまでゼウスの大腿部に入れておいたので、デイオニソスはゼウスの足から生れた。誕生後もヘラの復讐を恐れてゼウスはデイオニソスの世話をヘルメスに頼んだ。ヘルメスは誰も知らせないでニサの妖精たちに預けて養育を頼んだ。
- デイオニソス神として成長したデイオニソスはある日海岸を歩いている時にエトルリアの海賊船にさらわれたがその船内には巨大な葡萄の木が生えてきてぶどうで一杯になり海水もワインの香りがし始めて水夫達が酔っ払った状態の時にデイオニソスはライオンに化けたので水夫達は海に飛び込みイルカに変えられてしまったと言う話がある。もう1つの話は、ナクソス島でのこと、偉大なアテノの英雄テセウスがクレタ島の迷路でミノア王の娘・アリアドネの協力でミノタロスと言う怪物退治に成功して結婚する約束をしていた所、帰路にナクソス島に暫く船を停めた時にアリアドネが1人で散歩に出かけ眠り込んでいた所へデイオニソスが現れアリアドネと恋に陥り結婚してしまった。ゼウスはデイオニソスを喜ばせる為にアリアドネを不死身にしてやった。彼等の間にはイピオナス、エウアンセ、スタフィロスの3人の子供が生れたがこの名前はぶどうと関係がある。
- デイオニソス祭 デイオニソスの通過する所では不思議な事件が起きた。地面や岩の間から酒の泉が湧出たり、川の水がミルクや蜜に変わったりし、喜びや花の輪でお祭りを盛上げテーブルに出てくるワインは幸せを増し、人々に歓喜をもたらし全てを忘れさせた。デオニソス崇拝の特徴は精神錯乱状態に陥ることであった。特に女性に好かれて山頂で真夜中の饗宴が多かった。
- デオニソス神| デオシソスの神殿は出生地テーベにはなくて大祭「トリエテリカ」はシサエロン山の麓で女性達だけの祭りで真夜中に松明のもとで行われた。デオニソスを讃える祭りはBC6世紀頃からギリシャで行われた。最も華々しい祭りはアッティカの大、小二種類の祭りであった。大祭は農業祝と受精の喜びの祭りで神の像を神殿から町を通り抜けて他の神殿に移す事であった。祭には市民も参加して変装した男達が神の像の周りで踊り、コーラスにはフルートの伴奏で讃歌が歌われた。行列はアテネの古代アゴラを通り抜けて最後に神殿とデイオニソス劇場のあるアクロポリス南部の麓に進んだ。この劇場ではかの有名なギリシャ四大悲劇が演じられ4日に及んだ。(四大悲劇:アイスキュロス、ソフォクレス、エウリピデス、アリストファネス)他の有名な神殿はデロス、レムノス、ナクソス、ヒオス、コーフ、コス、レズボス等の島々にあり、ペルガモン、エジプトにもありました。
- 動物と花 神に捧げられた動物は雄牛、山羊、豚、ロバ、豹、虎、ライオンで聖なる植物は葡萄、櫨、くるみ、イチジク、バラ、水仙でした。
- シンボル 彼のシンボルは「セルソス」で武器や魔法の杖として使用した。初期のギリシャ芸術ではデイオニソスは髭面で表現されていたが、BC4世紀頃から山羊か豹の皮をかぶり、瓶を持った立派な青年として描かれるようになった。

14) パン

パンはヘルメスと妖精トリオピの息子で足が山羊で尻尾があり、頭に2本の角がありヤギの耳を持っていた。トリオピは恐怖に慄いて息子を捨てて出て行ってしまった。パンの仕事は羊の群れを守る神で、デイオニソスはそんな彼に特別な興味を示したのでデイオニソス神の従者の一員となりフルートを奏でる達人でもあった。パンの崇拝は出生地のアルカディアから始まりギリシャ全土に広まった。

ヘルシャ戦争の時期にアテネで急に広まった。

パンは木の妖精ハマドライアドの1人のかわいいシュリンクスに恋をしたが、子の妖精は彼から逃れる為にラドン河の岸まで逃げて川に助けを求めたのでパンが彼女に触れようとした瞬間に葦に変えてしまった。悲しみに沈んだパンは葦の一部を切り取りパンパイプとして有名な「シュリンクス」と言う楽器を作った。

二番目の不幸は妖精ピテイスとの恋であった。ピテイスはパンと風の神に同時に愛され、怒った風の神ボレアスは彼女を崖から吹き飛ばしてしまった。それを見て可愛そうにと思った母ガイアは彼女を木にかえて彼女の名前を取って松ピテイスと命名した。更な悲劇は妖精エコーとの物語で、追いかけられた彼女は山へ逃げたがそこにいた羊飼いたちが彼女を八つ裂きにしてしまったので唯、助けを求める声「エコー」だけが残った。

おわり